

## ご注意！ 学校で危惧される新しい皮膚病 （トリコフィトン・トンズランス感染症）

広島皮膚科医会 篠田 勸、山本 匡

### はじめに

2001年、高校生や中学生の格闘技競技者（柔道部やレスリング部）にトリコフィトン・トンズランス（以下トンズランス）菌の集団感染が報告されました。トンズランス菌とは、1960年代にキューバからアメリカに持ち込まれ、日本では2001年に確認された新種の輸入白癬菌です。接触により感染するので、柔道やレスリングなど国際試合で欧米の選手から感染した日本の選手たちが国内の試合や練習を行うことによって、本症が徐々に拡大しました。そして今日では、格闘技をしていない人への感染も報告されています。

本年度から中学1年生と2年生で武道が必修化されましたが、柔道場に通う選手から一般生徒への感染が起これば、学校で集団発生に至る可能性も想定されます。また、皮膚科以外に学校医など多くの医療機関に受診される可能性がありますので、後述の皮疹に留意頂くことが大切と考えられます。

### 症状

トンズランス感染症は足には感染しにくく、格闘技の選手が肌を触れ合う頭、顔、頸、上半身などに症状が出やすいこと、また、一般の白癬菌に比べ感染力が強いことが特徴とされています。皮膚に感染した場合、薄い鱗屑を伴う直径1～2cmの淡い紅斑が単発あるいは複数みられます（参考資料1から）。頭部の場合には毛実質に感染するため、不完全な脱毛を来したり、膿が出たりすることがあります。一見すると、軽い湿疹や不完全な脱毛あるいは頭皮のニキビに見える症状を呈するため注意が必要となります。特に頭皮の病変については、ステロイド外用剤により悪化するのは当然ですが、抗真菌剤の外用によっても病変が刺激され悪化することがあります。さらに経過によっては瘢痕性脱毛（生涯にわたる脱毛）を来す可能性があるため十分な留意が必要となります。



感染例：頭皮の病変



感染例：白癬（柔道による感染）

\*写真提供はいずれも岡野皮膚科クリニック様から

### 診断

他の白癬と同様、採取した鱗屑あるいは毛をKOH法で直接鏡検すれば、鱗屑では菌糸型菌要素が、毛では毛内寄生性胞子が確認されます。確定診断にはサブローブドウ糖寒天培地

などによる真菌培養にて原因菌の分離培養が必要となります。また道場などでの保菌者のスクリーニングにはブラシ法<sup>(参考資料1から)</sup>が有用とされています。

## 治療と予防

感染初期の皮膚の感染には抗真菌剤外用が有効です。一方、頭部の毛実質内への感染には抗真菌剤（イトラコナゾールあるいは塩酸テルビナフィン）の内服治療の適応となります。頭皮の感染で菌量が少ない場合には抗真菌剤入りのミコナゾールシャンプーを用いるとの報告があります<sup>(参考資料2から)</sup>。また、肌の接触により感染するため、罹患した生徒は完治するまで部活動を控えることも必要です。具体的な予防法としては、全日本柔道連盟サイト（<http://www.judo.or.jp/data/data-shinkin.php>）に掲載されている下記の内容をご参考にしてください。

- ①練習直後にシャワーや入浴をし、できるだけ早く頭や身体を石鹸で洗いましょう。他の白癬菌に比べても、トズランス菌の体内への侵入速度は速く、傷口からだど、通常の約2倍の速さで侵入します。
- ②シャワー施設のない場合は、水道の蛇口を利用して頭を洗浄し、濡れたタオルで身体を清潔にしてください。
- ③柔道着はよく洗濯しましょう。柔道着には菌が付着してしまいます。
- ④練習前後には道場をよく掃除しましょう。菌は抜け毛やアカのなかで半年間生存します。電気掃除機の使用を勧めます。自分の部屋も清潔にしましょう。
- ⑤部員同士で帽子やシャツ、タオルなどの貸し借り(共用)は、やめましょう。
- ⑥部員内、家族内に症状のある人がいたら、早めに治療するように勧めましょう。
- ⑦練習前後に友人同士でボディチェックをし、皮疹のある者は休ませましょう。

## 最後に

トズランス感染症は決して怖い病気ではありませんので、必要以上に恐れるものではありません。しかし、全く症状がない無症候性キャリアが多いとの報告もあり潜在的に蔓延する可能性があります。また、試合が近い等の理由で治療を怠ると感染が拡大し、集団発生に至る可能性も考えられます。一方、皮膚科医であっても新種の感染症であること、診断が難しい疾患であることから、治療に難渋する例も少なからずあるようです。中学での武道必修化に伴い、本症の動向を注意深く観察することが重要と考えております。（なお、学校現場における本症の周知については、広島市医師会学校医部会を通して広島市教育委員会に要望書を提出しています。）

### 参考資料

- 1) 学校医の手引き：学校医における専門校医の役割 皮膚科領域 P105-109, 広島県医師会 学校医部会, 2009
- 2) トズランス感染症 ブラシ検査・治療・予防のガイドライン, 株式会社 春恒社, 2008